



時代の変化に対応した身近な図書館へ

早瀬保子

アジア経済研究所の図書館は、地域に開かれた図書館として、最近、子供も含め対象者を広げてきた。地域の人にも広く知って頂くため、これまで大学生のみならず、地域の歩く会のグループにも呼びかけ、各種展示がある時などに、数回案内してきた。彼等は、近隣のO.V.T.Aや放送大学の訪問経験はあるが、研究所へは初めてで、図書館の存在や、誰でも入館できることを知らなかった者が大半であった。専門図書館であることから、利用者がいる程度限られるのはやむを得ないが、利用者が少ないと感じた者も少なくなかったようである。しかし、この図書館を知ったことにより、家族や友人などにも情報が広がる可能性は小さくない。研究所の移転の際には、各種新聞のみならず、地域の新聞などにも記事が掲載された。近隣地域の利用者を広げるには、広報活動も時々行うことが重要であると思われる。来館者へは研究所の講演会などの案内も含めて行えば、研究所や図書館がより身近に感じられることとなる。

アジナ経済研究所の図書館は、退職後も時々利用させて頂いている。最近では、インターネットの情報が豊富になり、統計年鑑などを利用できる国もあるが、アジア、アフリカ、ラテンアメリカ諸国の人口センサスなど各種統計調査や、政治社会経済問題に関する各種単行本、各国の研究雑誌・新聞などが多種にわたり利用できる所は、研究所の図書館において日本には無く、利用者にとって大変ありがたく思っている。かつて、アジアの研究者が、自国の統計書が一九五〇年代以降時系列に整備され、現地語の研究書や雑誌など各種書物がそろっている図書館を見て、感嘆していた様子が記憶に新しい。経費削減の折柄、地道に現地の資料を収集・整備することは容易でないが、どこにでもある図書館ではない専門図書館としての特性を維持して頂くことを切に願っている。

研究所の図書館の利用の際は、事前に必要図書を検索してから訪問する。新刊図書案内が地域別にインターネットで利用でき、普段よく利用する図書は、登録しておけば、その都度メール連絡があるので便利である。開架式である図書館は、探している本のみならず、関連する本も同じ棚に見つけることができるので便利である。図書を探すのに時々、不便に感じることは、書庫の表示がたまに来る外部利用者にはわかりづらく、広い館内を探し回ることも少なくない。書庫の表示を地域・国名のみならず分類番号も、より大きな字で、多くの箇所に案内表示があれば、高齢者にとっても親切で、探す時間が節約でき、高齢化の時代にも、対応できよう。最近うれしいことは、個人で複写機を利用する場合、複写費が一般の店と同等の値段に下がり、研究所の名前の入った領収書が発行されるようになったことである。パソコンの持ち込みも認められており、時間をかけて図書館を利用する者にとっては便利である。

インターネットの利用が進み、図書館に足を運ばず、インターネットからのコピーペーストで論文を作成する学生が少なくなることが話題となっている。学生には現地資料の利用の重要性や魅力のみならず、世界銀行など国際機関から手軽に得られる統計情報も、現地の原資料から自分で加工分析することにより、異なった視点からの考察が可能になることなど、学生に教示する必要があるのである。一方で、高齢者の図書館利用者は、筆者の散見する限り、一般図書館では増えているようである。高齢者は年々増加することから研究所の図書館が、幅広い利用者の便を今後一層整え、時代に対応するようなすばらしい専門図書館として、発展していくことを願ってやまない。

(はやせ やすこ/明海大学非常勤講師)